

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成27年9月7日

施設名	高知県立歴史民俗資料館	所管課	文化生活部文化推進課
-----	-------------	-----	------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日
施設所在地	南国市岡豊町八幡1099-1		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の歴史、考古及び民俗(以下「歴史民俗等」という。)に関する資料の収集、保管及び展示 ・歴史民俗等に関する専門的な調査研究 ・歴史民俗等に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動 ・高知県における文化財の保存、活用の推進 ・上記のほか、歴史民俗資料館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
	<p>〈建物〉 延床面積4527.47㎡ RC造地上3階建</p> <p>〈土地〉 124,520㎡</p> <p>〈主要施設〉 常設展示室、企画展示室、体験学習室、多目的ホール、 収蔵庫、燻蒸室、研究室、会議室、資料室など</p> <p>〈開館時間〉 午前9時～午後5時</p> <p>〈休館日〉 12月27日～1月1日</p> <p>〈主な料金〉 常設展 一般460円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、 精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、 被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 企画展示室24,140円(1日) 多目的ホール15,420円</p>		
職員体制	常勤職員： 8人 契約職員： 11人 合計： 19人		

※職員数は平成26年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(予算)
収入	県支出金	135,050	180,334	156,593
	事業収入	5,442	16,799	9,816
	その他	0	846	12
	収入計(a)	140,492	197,979	166,421
支出	事業費	140,492	197,979	166,421
	(うち人件費)	(66,108)	(77,510)	(78,540)
	その他	0	0	0
	支出計(b)	140,492	197,979	166,421
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

	平成25年度(実績)	平成26年度(実績)	前年度比
年間利用者数(単位:人)	常設展	5,447人	6,320人 + 873人
	企画展	19,747人	17,481人 - 2,266人
	合計	25,194人	23,801人 - 1,393人
	<p>〈利用実績〉 平成26年度は総入館者数は23,801人で前年度に比べ1,393人減少した。年間入館者目標24,000人に対してわずかに及ばなかった。</p>		

4 県の要求水準に対する評価

郷土の歴史文化を後世に引き継ぐとともに、地域への理解と関心を深める

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき高知県の歴史、考古、民俗の各分野の資料を収集し、適切に保存する

評価項目

(1) 本県の歴史文化を後世に伝えるうえで必要な資料を収集する

状況説明

- ・長宗我部氏関係資料の収集や近世・近代歴史関係資料を寄贈・寄託で 1159 点、仏教美術 関係の重要文化財など寄託で 4 幅、民俗資料関係では、35 点を寄贈で収集した。また収集できない資料については県下最古の唐箕を奈半利町に一時的に預かりを依頼し、香美市には、馬の鞍などの保存を依頼した。
- ・大阪の個人から長宗我部元親・盛親に仕えた側近の中内惣右衛門の子孫宅に伝来する「中将姫曼荼羅」、「三十三間小星筋兜」、「雲龍紋蒔絵鞍」、「長宗我部元親・信親連署状」4 点の寄贈を受けた。また長宗我部関係資料の複製を 13 点製作した。
- ・興津八幡宮の室町期の大太刀拵付 1 口を寄託で受入、また須崎市音無神社の長宗我部盛親奉納と言われる神輿 1 基を寄託で受け入れた。
- ・四万十市の盆行事、いざなぎ流水神まつりなどの映像記録を残した。
- ・漁労関係資料として土佐の地引網船や浦戸湾の釣り船の設計図である板図 22 枚の寄贈を受けた。
- ・「四国霊場開創 1200 年記念 空海の足音四国遍路」展に合わせて、近現代の遍路関係資料が遺存していることを確認し、移動できない資料を写真で資料化した。
- ・南海トラフに伴う地震・津波被害から指定文化財を守るため、寺社の意向を確認の上、重要文化財を含む作品 7 件の寄託を受けた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・重要文化財や市町村指定文化財の寄託の受入れを行うなど、後世に引き継ぐべき文化財の保護・保存に努めた。 ・館のテーマに沿った長宗我部関係の資料(作品)の寄贈を受けた。

評価項目

(2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

1 資料整理・分類

○歴史

・平成 26 年度寄贈資料 632 点の調査カード 107 枚を作成した。また、書籍については 1 データ化した。

○考古

・平成 26 年度寄託資料 4 幅の調査カード 76 枚を作成した。

○民俗

・平成 26 年度寄贈資料 76 点の調査カード 142 枚を作成したが、本年度以前の収集資料の一部に整理・分類など事後の処理が滞っているものがある。

・田辺寿男所蔵図書の第 1 回整理エクセルデータリスト化を 3,176 冊全て行った。

・酒造関係資料等の預かり資料 863 点の清掃・計測・写真撮影及びエクセルデータ化を行った。

・田辺寿男白黒写真 1,500 枚を整理した。(平成 18 年度約 20,000 枚寄贈・未整理 8,500 枚)

・田辺寿男白黒写真 1,080 枚のネガをデジタル化した。(平成 18 年度 26,578 枚寄贈・未処理 23,464 枚)

2 点検・劣化防止

・展示資料については毎日 17 時前に学芸員・解説員で点検した。

・各収蔵庫と展示ケースは、温湿度記録計でデータを記録した。

・「四国霊場開創 1200 年記念 空海の足音四国遍路」展にあわせて各札所の展示借用美術工芸品の現状調査し、展示のために一時修理をしたものやカビの影響を受けた作品については、県と協議し、適正な保存環境の提案や重要文化財のカビ取りをした。

・資料(作品)の保存のため、適した温湿度で管理、展示の場合も同様に管理さらに重要文化財等の脆弱な資料についてはエアータイトケース展示で管理した。

・虫進入調査をフェロモントラップで実施した。

・展示室独立ケースの修理を行った。

・山崎氏寄贈の郷土玩具 422 点を燻蒸した。

3 保存処理・修理

・以下の保存処理を行った。

田辺寿男民俗写真白黒フィルムのカビ取り……フィルム 80 本(未処理 26,308 本)

田村遺跡群出土墨書祈禱札の修理 1 枚 (岡豊城跡未処理鉄器 55 点)

伝長宗我部信親所用「金小札緋威二枚胴具足」毎年継続保存修理

刀剣研磨 1 口

・資料保存のために長宗我部関係資料 12 点の複製品を製作した。

評価	理由
C	<p>・上記により、平成 26 年度寄贈資料等については、適正な管理運営が遂行されたと認められるが、従来から預かっている民具等の資料が十分整理できていない実態があることから、早期の対応が必要である。</p>

意見

・民俗資料が十分整理できていないことは、体制的に厳しい面もあるが、検討が必要である。

要求水準－調査・研究

収蔵資料の調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目

(1) 様々な歴史分野の中から題材を絞り、テーマ性を持った調査研究を進める

状況説明

・歴史分野は、岡山県立博物館との交流事業の一環として「長宗我部氏と宇喜多氏」に関連した新史料である岡山県林原美術館蔵「石谷家文書」の「長宗我部発給文書」の解読を進めたうえで、展示公開し、高知大学津野教授と共同で発表した。また、長宗我部氏の研究に特化した企画展図録も刊行した。

・考古分野は、「空海の足音 四国へんろ展」の展示に向けた重要文化財を含む作品、それらの保存環境及び劣化状況の調査を実施し、その成果を図録に掲載した。また、愛媛大学の「四国遍路の世界の巡礼」研究にも参画した。

・民俗分野は、年中行事の調査を継続的に実施しており、本年度は物部町の年中行事の調査を集中的に実施した。また和船の調査研究の一環として、資料調査員である芝藤氏と田辺氏の論考を編集し『研究紀要』に掲載した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新史料「石谷家文書」のうち「長宗我部発給文書」の解読を行い、高知大学津野教授と共同発表するなど、全国的に注目を集めたテーマの調査研究を進めた。 ・へんろ展に関して、重要文化財を含む作品、保存環境及び劣化状況の調査を行い、成果を図録に掲載することで公表した。

評価項目

(2) 長宗我部氏関係の資料の研究を進め、展示などを通じて広く公開する

状況説明

・上半期は林原美術館・岡山県立博物館の学芸員と共同で新史料「石谷家文書」の分析を行った。長宗我部元親発給文書を中心に解読を進め、資料の展示公開のほか、新聞紙上で高知大学教授津野倫明氏と共同発表した。また、職員と鼎談形式でシンポジウムを行うなどの普及活動を行ったが、一般県民の反応は薄く、情報発信の方法に課題を残した。

・下半期は平成 27 年度企画展「長宗我部遺臣それぞれの選択」に関し、改易になった長宗我部盛親が逼塞していた京都方面(洛中)及び、大坂夏の陣で主戦場となった大阪八尾方面において実地調査を行った他、長宗我部の重臣・桑名弥次兵衛の子孫が三重県に寄贈・寄託していた資料を発掘し調査した。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・新史料「石谷家文書」のうち「長宗我部発給文書」の解読を行い、その成果を展示だけでなく大学との共同発表等広く公開した。また、平成 27 年度の企画展に向け、県外において長宗我部関係資料の実地調査を行うなどの取組みを進めた。 ・県内外への情報発信については、今後さらに努力が求められる。

要求水準－展示・公開

これまでの歴史の積み重ねのうえに現在の高知県があることを伝え、県民の郷土への誇りと愛着を育む

評価項目

(1) 公開承認施設として、貴重な資料の公開など魅力ある企画展示を行い、5年間で 15 万人以上の観覧者を目指す

状況説明

・平成 26 年度は、通常年 4 回の企画展を実施するが、美術館で開催した「空海の足音 四国へんろ展 高知編」を含めて 5 回開催し、観覧者数は 37,373 人となった。

・歴史分野では、高知・岡山文化交流事業Ⅲ、特別展「長宗我部氏と宇喜多氏 —天下人に翻弄された戦国大名—」を開催し、重要文化財「絹本着色 宇喜多能家像」1 幅（岡山県立博物館蔵）を前期展示で公開した。また、夏にはコーナー展として「深淵神社の芝居絵屏風」を展示した。

・考古分野では、「四国霊場開創 1200 年記念 空海の足音四国へんろ展 高知編」のプレ企画として国立民族学博物館・千里文化財団との主催で「マンダラ」展を開催した。8・9 月には「四国霊場開創 1200 年記念 空海の足音四国へんろ展」を企画・運営して開催（会場：高知県立美術館）し、国宝 2 件・国の重要文化財 21 件、県指定文化財 13 件など公開した。

・民俗分野では、地域との連携・調査研究の成果を活かした企画展「椿姫の里・三原—四国西南端の村の伝説と民俗—」と、「田辺寿男氏寄贈写真資料」の資料整理の成果を公開する企画展「田辺寿男の民俗写真4 たましいの四季」を開催した。あわせて、3つのコーナー展「干支の玩具 未」、「昔のくらしの道具」、「おひなさま」を開催した。

評価	理由
A	・国宝や重要文化財など貴重な資料を多く公開し、魅力ある展示を行った。 ・「空海の足音 四国へんろ展 高知編」を含めて、観覧者数は 37,373 人となった。

評価項目

(2) 来館者一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや展示解説など、郷土の歴史や文化への理解を深めるためのサービスを充実させる

状況説明

- ・レファレンスは県内外や報道機関から電話やメール、手紙で寄せられる質問や来館しての質問が多く、学芸員、学芸補助が中心となって対応した。
- ・レファレンス対応は90件以上、要した時間は延べ47時間以上であった。また、県内外や研究者の調査来館は17件、要した時間は52時間以上であった。
- ・専門的な展示解説を希望する団体や視察には学芸員が解説を行った。(20件実施)
- ・昨年度に引き続き、ボランティア「カルチャーサポーター」が、高知・岡山文化交流事業により、岡山県立博物館ボランティア友の会と合同ボランティア展示ガイドを両館で実施した。
- ・企画展では、展示室トーク(展示解説)を企画展ごとに実施しており、4回の企画展(へんろ展を除く)で10回実施し190人の参加があった。また、「四国霊場開創1200年記念 空海の足音四国へんろ展」では、通常のギャラリートークが4回、期間途中より1日2回のショートギャラリートークを実施、計30回で1,355人の参加があった。
- ・「四国霊場開創1200年記念 空海の足音四国へんろ展 高知編」では常時学芸員が会場近くに待機し、来館者からの質問や関東や畿内の研究者の来訪に対応できる体制をとった。
- ・館内のことだけでなく、指定文化財所有者からの収蔵施設に関する環境の問い合わせや、国史跡岡豊城跡解説についても対応し、郷土の歴史や文化への理解を深めるサービスを充実させた。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none">・多くの問合せや来館に対応するなど、レファレンスサービスを充実させた。・展示解説やギャラリートークを数多く実施し、サービスの充実を図った。また、合同ボランティアガイドによる展示解説を行うなど、工夫も認められる。

要求水準－教育・普及

様々な年代を対象とした教育・普及活動を行う

評価項目

(1) 学校との連携による出前授業や校外学習などに計画的に取り組み、子どもたちの歴史や文化に触れる機会を充実させる

状況説明

- ・「甲冑を身につけよう」「昔遊び」「昔のくらし道具(旧大柝高校民具見学)」等 6 回の出前授業を行った。
- ・学校との連携に積極的に取り組んだ結果、43 校、2,056 名の児童・生徒が校外学習で来館した。また、うち 19 校に「火おこし」や「勾玉づくり」など体験学習を通して、歴史や文化に触れる機会を提供した。
- ・民話紙芝居や折り紙かぶとなど多彩な子ども対象の体験講座「ワクワクワーク」を実施したほか、しばらく中止していた学校団体のバス送迎事業も実施した。
- ・夏休みの児童クラブでの体験学習や職場体験 3 校を受け入れた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業や校外学習を積極的に実施し、児童・生徒が歴史や文化に触れる機会を数多く提供した。 ・館内において多彩な体験講座を実施したほか、児童クラブの体験学習等の受入れにも対応した。

評価項目

(2) 県民が郷土の歴史や文化に親しむことができる講座などを開催する

状況説明

- ・特別展・企画展に関連して外部講師による講演会を3回実施し、併せて担当学芸員による展示解説を実施した。
- ・「空海の足音 四国へんろ展」では、講座と会期の後半に毎日ギャラリートークを実施した。
- ・「椿姫の里・三原展」と「長宗我部氏と宇喜多氏展」では、シンポジウム形式で講座を計 4 回実施した。
- ・「椿姫の里・三原展」にあわせた史跡めぐりや南国市岡豊地区周辺の歴史遺産を巡る「まほろばウォーク」など館外の見学会を積極的に開催した。
- ・旧大柝高校関連企画として春には特別企画「神々と精霊の物語－いざなぎ流祭文の世界－」でシンポジウム・神楽公演など、秋には旧大柝高校の一般公開にあわせて日本民具学会第 39 回大会を奥物部ふれあいプラザにおいて共催で実施し、民俗・歴史・仏教美術、いざなぎと多種多様な事業を展開した。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・「空海の足音 四国へんろ展」では、会期の後半に毎日ギャラリートークを実施した。 ・歴史、民俗、仏教美術、いざなぎなど、多種多様な事業を実施し、郷土の歴史や文化に親しむことができる機会を提供した。

評価項目

土佐の歴史に関する積極的な情報発信により、県内外に館の魅力を広める

状況説明

- ・リーフレット『催物のご案内』を観光案内所、旅館・ホテル等の観光客の目に触れる場所へ積極的に配布した。
- ・広報媒体は、従来の新聞やテレビだけでなく、HPは随時、ブログは31回(上半期26回、下半期5回)更新するなど、IT関連も活用した。
- ・新発見資料として全国的にマスコミで大きく取り上げられた林原美術館所蔵の「石谷家文書」を岡山県との交流展「長宗我部氏と宇喜多氏」で公開した。また、そのうち長宗我部元親発給文書を中心に解説を進め、新聞紙上で高知大学教授津野倫明氏と共同発表したことで、高知県立歴史民俗資料館を長宗我部氏研究の拠点として県内外にアピールした。
- ・「長宗我部発給文書」については、職員と鼎談形式でシンポジウムを行うなどの普及活動を行ったが、一般県民の反応は薄く、情報発信の方法に課題を残した。
- ・「空海の足音 四国へんろ展」は、関西にポスターを掲示したほか、四国4県の開催館で共通パンフレットの作成、四国へんろの全国先達会における早朝からのチラシ配布など相互協力を通じた積極的な広報を行った。

評価	理由
B	・積極的な情報発信により、県内外に館の魅力を広めることができた。

評価項目

(1) 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状況説明

・平成 26 年度は、高知・岡山文化交流事業の最終年度にあたり、岡山県立博物館と共同調査の成果を活かして持ち回りで交流展「長宗我部氏と宇喜多氏」を開催し、新発見の林原美術館所蔵の「石谷家文書」を公開するなど、事業の充実を図った。また、ボランティアが互いの館に出向いて合同ガイドを行うことで、県民サービスの向上も図った。

・特別展「四国霊場開創 1200 年 空海の足音 四国へんろ展 高知編」は、はじめて四国 4 県が共通のテーマで開催した特別展であり、先学の調査研究の蓄積を活かし、さらに共同調査や研究の情報提供を実施することによって、四国へんろに関して、これまでにない規模の事業を展開した。

評価	理由
A	・高知・岡山文化交流事業、四国4県連携事業において、新発見史料や国宝・重要文化財の公開を行うなど、魅力ある展示を通して県民サービスの向上を図った。

評価項目

(2) 岡豊山周辺を歴史的な好奇心を高めるゾーンとして位置づけ、関係機関と連携した取り組みを通じて地域の活性化に貢献する

状況説明

・国指定史跡である岡豊城跡を広く活用していただくため、館内の解説員が史跡を案内ができるよう努めた。

・イベント事業として、土佐のまほろば地区振興協議会や地域ボランティア、岡豊地区各自治会、地域女性グループ、カルチャーサポーターなどと連携することで「岡豊山さくらまつり(土佐の食 I グランプリ会場)」、「長宗我部フェス」、「れきみんの日(開館記念日、無料開放事業)」、「岡豊山の夏祭り」等を開催し、地域の活性化に貢献した。

・県立施設として県下の活動を行っており、平成 24 年度発足した「いざなぎ流と物部川流域の文化を考える会」の事業として、香美市物部町において、公演などを実施した。

評価	理由
B	・地元団体等と連携したイベントの開催により、地域活性化に貢献した。また、岡豊城跡の活用を促進するため、館内の解説員が史跡を案内できるよう対応を図った。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1) 適切な管理運営の確保

社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報 ・情報公開の状況
建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

1. 社会的責任
 - ・高知県文化財団の個人情報保護規程により適正に運用した。
2. 建物や設備の管理
 - ・設備等は業者に委託し、定期的に点検したうえで、消耗部材などは計画的に取り替えた。
 - ・来館者用の洋式トイレ、長宗我部展示室入り口のシャッターの修繕、遊歩道へ暗渠敷設(岡豊山公園雨水排水対策)などを行った。
 - ・警備は業者に委託し、情報の交換を毎日実施した。
 - ・館内の環境管理は業者に委託し、毎日館内展示室等の温湿度データの提出を受けた。
 - ・清掃は業者に委託し、おもてなしトイレとして常に花をトイレに設置した。
3. 危機管理
 - ・館職員・警備・環境管理委託業者と自衛消防団を組織、非常時に備えた。
 - ・緊急時の道具と保存食品、飲料水の準備。夜間緊急時は警備会社より職員の連絡網を利用し対応できる体制を組んだ。
 - ・災害時等の対応は、「風水害等の配備基準及び職員体制」を作成、配備体制を組んで警備、環境管理委託業者と連携対応をした。
 - ・消防署の立ち会いの下避難訓練を実施したほか、燻蒸中にガス漏れが発生したことを想定した避難訓練も実施した。
 - ・マニュアルの一部は、消防計画を年度末から作成、新年度から計画を実施、避難経路も示した。
 - ・職場体験や博物館実習時の初日に避難経路を確認、経路を記憶してもらうなど指導をした。
 - ・「国宝・重要文化財(美術工芸)防災・防犯対策研修会」に職員を派遣し、対策に活用した。

評価	理由
B	・上記により、適正な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目		
(2) 利用者サービスの維持向上		
サービス向上への取り組み	・利用者の意見の反映 ・自己点検 ・評価の状況 ・事故、クレームへの対応	・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み

状況説明	
<ul style="list-style-type: none"> ・車いすを利用する方や来館者のバスの予約については、警備員と連携し案内などを実施した。 ・来館者アンケートを中心とした来館者の企画展や施設に対するニーズの把握に努めた。 ・来館者アンケートにて要望のあった館内洋式トイレに洗浄暖房便座を設置(8ヶ所)した。 ・問い合わせやクレーム内容は全職員に周知し、改善可能な部分は早急な対応を取るなど、誠意をもった対応に努めたが、事故にかかる対応において、解決に相当の時間を要したものがあつた。 ・毎月下旬の全体会(全職員参加)を行い、情報の共有化と問題点等の討議を行い、来館者への良質なサービス提供を図つた。 ・館の広報誌『岡豊風日』を年4回発行し、館の企画展広報と学芸員の調査、館での催し物についての報告、案内等を行い、県民へのサービス提供を行いホームページでも閲覧できる体制を取つた。 ・職場体験や大学からの博物館実習を受け入れ、歴史・民俗・考古の各分野の基礎知識と博物館実務の実習教育を行った。 ・財団や県が主催する研修に職員を派遣した。 ・文化庁主催の研修に毎年職員を派遣し、情報交換やセキュリティについて学んだ。 ・公開承認施設会議に職員を派遣し、公開承認施設としての文化財の取り扱いにかかる他県の状況や事故、展示環境について学び、活用した。 	

評価	理由
C	・上記により、全体としては、概ね適正な管理運営が遂行されたと認められるものの、過年度の事案として、預かつた資料の取扱いが不適切で、改善を要する事項がある。今後は、規程等を遵守した取り扱いが必要である。

評価項目		
(3) 利用実績		
利用実績の状況	・利用状況の分析	

状況説明	
<ul style="list-style-type: none"> ・観覧者目標 24,000 人に対し、実績 23,801 人であつた。 ・総利用者目標 49,000 人に対し、実績 50,609 人であつた。 ・「マンダラーチベット・ネパールの仏たちー」は「四国霊場開創 1200 年記念 空海の足音 四国へんろ展 高知編」のプレ企画ではあつたが、展示解説に定員 30 人のところ 62 人が来館し、新たな客層にアピールできた。 ・施設利用は平成 25 年度と同数の 11 件であつた。 	

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・観覧者は目標に対し 99%の実績であり、ほぼ目標に達した。 ・総利用者は目標に対し、103%の実績であり、目標に達した。

評価項目		
(4) 収支の状況		
経営努力	・収入増加の取り組み	・経費削減の取り組み

状況説明	
<ul style="list-style-type: none"> ・広く地域に目を向けた企画展「椿姫の里・三原」や特別展「四国霊場開創 1200 年 四国へんろ展」の開催により、新たな話題性を追求し、集客・収入増加に努めた。 ・旧大柘高校を利用した民具展示「民具で地域を再発見」では、館の刊行物の販売を行った。 ・通信経費の節減と集客促進活動を合わせて、ポスター・チラシの広報物を可能な限り企業に直接配布（交通機関・協力者等）し、家族での来館促進の営業活動を行った。 ・不要部分の消灯・間引き・W数低減・LED化などにより、電気料抑制に努めた。 ・これらの取り組みの結果、特定費用準備資金を 2,200 千円計上した。 ・特別展「四国霊場開創 1200 年 四国へんろ展」では、経費削減に努めた結果、予算に対して経費を 4,828 千円節減した。 	

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな話題性を追求し、集客・収入増加に努めた。 ・特定費用準備資金を 2,200 千円計上した。 ・特別展「四国霊場開創 1200 年 四国へんろ展」では、予算に対して経費を 4,828 千円節減した。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・国宝や重要文化財など貴重な資料を多く公開し、魅力ある展示を行った。 ・観覧者は目標に対し 99%の実績であり、ほぼ目標に達した。 ・総利用者は目標に対し、103%の実績であり、目標に達した。 ・特定費用準備資金を 2,200 千円計上し、また特別展「四国霊場開創 1200 年 四国へんろ展」では、予算に対して経費を 4,828 千円節減するなど、収入増加・経費削減の取組みが認められる。 ・従来から預かっている民具等の資料が十分整理できていない実態があることから、早期の対応が必要である。 ・過年度の事案として、預かった資料の取扱いが不適切で、改善を要する事項がある。今後は、規程等を遵守した取り扱いが必要である。 ・上記により、一部要求水準に達しない面があったものの、要求水準を上回る成果もあったため、全体を通してみると、概ね要求水準どおりであったと認められる。

意見
<ul style="list-style-type: none"> ・民具等の資料が十分整理できていないことについては、県としても早期整理の必要性を認識して対応していただきたい。

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。